左右ポピュリズムの共通起源―ニューレフト運動の考察から

アンダーランド　ジェイク　#1A193008-2 73組

問題提起：1950年代以降、新たな左翼イデオロギーの確立を目的とするニューレフト運動が先進国の間で流行をみた。本論文では水島治郎が『ポピュリズムとは何か−民主主義の敵か、改革の希望か』（２０１６年、中公新書）の中で提示するポピュリズムの定義を援用し、それに則ってニューレフト運動をポピュリズム運動として捉え、分析する。具体的には、ポピュリズムにおける「人民」の概念を中心に論じ、ニューレフト運動が新たな「人民」を措定し、その代表者を自認して既存のエスタブリッシュメントを批判する運動であると解釈する。その過程で、近年興隆している右翼ポピュリズムとニューレフトの左翼ポピュリズムの類似性を挙げ、この二つの対立するイデオロギーに基づくポピュリズムが共通の起源を持っているという仮説を提示する。この際、ピッパ・ノリスの「文化的反発説」(cultural backlash theory, Pippa Norris and Ronald Inglehart, 2016) により左右両翼のポピュリズムを説明することができることを議論の要に置く。現時点で予想される結論は、次の２点である。（１）アメリカ、フランス、日本のニューレフト運動は、運動の展開の中でポピュリズム運動としての性格を強めて行った。（２）左右ポピュリズムが「文化的反発」（Norris, 同）に根ざす共通の起源を持っているという仮説は、アメリカのニューレフト運動とトランプ現象に関しては支持される。

想定される目次：

はじめに−ポピュリズムとイデオロギー

1. ニューレフトとは
   1. 思想
2. 各国のニューレフト運動の展開
   1. フランス
   2. アメリカ
   3. 日本（未定、日本の新左翼運動の特殊性により除外する可能性あり）
3. ポピュリズムとしてのニューレフト
   1. ニューレフトイデオロギーの根本にあるポピュリズム的要素
   2. フランス
   3. アメリカ
   4. 日本
4. 「文化的反発」と左右ポピュリズムの共通性
   1. ニューレフトの「人民」
   2. 置き去りにされた旧支配層と「文化的反発」
      1. 廃れる旧支配層とその反動
      2. 左翼の側ではアイデンティティポリティクスとカルチュラルアプロプリエーションによる同化意識
      3. 右翼の側では反左翼、排外主義と至上主義

おわりに−責任とアイデンティティに関して

参考文献：

Debord, Guy. 1967. *The society of the spectacle*. New York: Zone Books.

Inglehart, Ronald F. and Pippa Norris, 2016, “Trump, Brexit, and the Rise of Populism: Economic have-nots and cultural backlash” (RWP16-026). Retrieved from HKS Faculty Research Working Paper Series, June 17, 2019. Harvard Kennedy School.

Marcuse, Herbert. 1964. *One dimensional man.* Boston: Beacon Press.

大嶽秀夫2007『新左翼の遺産』東京大学出版会

ホーン川嶋瑶子2018『アメリカの社会変革―人種・移民・ジェンダー・LGBT』ちくま新書

水島治郎2016『ポピュリズムとは何か−民主主義の敵か、改革の希望か』中公新書。

水島治郎2017「『ハイブリッド型』としてのアメリカ？―グローバル・ポピュリズムの中の現代アメリカ政治」『生活経済政策』242（2017.3）、13-17頁